

第2期東海村スポーツ推進計画「進捗管理シート」

基本理念 運動・スポーツを通して人がつながり、まちが元気になる

資料 1

ビジョン 1 自分に合った「始める」「続ける」「活躍する」が叶う“運動・スポーツが身近なまち” 【「する」運動・スポーツ→きっかけ・場づくり】

基本目標 1 運動・スポーツに親しむ機会の創出

施策	事業名	実施主体	R6事業概要	R6事業報告	R7事業計画（案）※予算（案）の可決を前提に記載
(1) 子どもの運動あそびの充実	① ジュニア運動遊び教室	生涯	運動に苦手意識を持つ子どもたちが、運動に親しむきっかけづくりを目的として、6回程度の連続講座を実施する。	学年区分の3クラスをそれぞれ6回開催した。事後アンケートの結果、運動に対する意識の好転が確認できた。	ターゲットに訴求するプログラム、場の設定、広報を検討する。幼児・児童に加えて保護者向けに、運動に対する意識の好転を促すプログラムを検討する。
	② 保育士運動遊び研修	村教委	【新規】村内公・私立幼保・こども園の保育士を対象としてダンスを主とした運動あそび講座を実施する。	スマイル東海杉山先生指導の下、18名の若手保育士が体を動かす遊びの中で、ダンス指導のポイントを学んだ。	スマイル東海や地域スポーツ団体、プロスポーツ等と連携し、幼児・児童・生徒が運動あそびを通して運動・スポーツの楽しさを体験する機会を提供する。
(2) 身近に運動・スポーツができる機会の充実	① わくわくわんぱくパーク	スポ推	【新規】誰でも自由に運動遊びができる「公園」を、スポーツ施設等に再現し、運動あそびイベントを実施する。	イベント方式／施設開放方式等、事業の規模及び内容を調整しながらターゲットのニーズを把握した。	総合体育館をはじめ、各学校やコミセン、公園などの村内公共施設を活用したイベント開催等、運動・スポーツを身近なものとして親しめる仕掛けを研究する。
	② スポーツごみ拾い	スポ推	【新規】スポーツ推進委員協議会において、R7年度事業化を目指し、情報収集及び実施要項の作成を行う。	他自治体事業の視察や、東海まつり後の清掃活動への参加等、村内での事業化に向けて情報収集を行った。	情報収集及び検討の結果、イベント化は困難と判断されたため、ごみ拾いに限らず運動・スポーツを通した地域課題解決についての研究を継続する。
	③ とうかいまるとウォークラリー	スポ推	【新規】スポーツ推進委員協議会において、R7年度事業化を目指し、情報収集及び実施要項の作成を行う。	地域団体主催事業への運営協力等、スポーツ部門での事業化に向けて情報収集を行い、企画（案）を作成した。	スポーツ推進委員事業に加え、村の歴史・文化・自然等社会教育分野及び健康づくり等多分野が連携・協働するプラットフォーム事業としての実施を目指す。
(3) 運動・スポーツの場の整備・充実	① 総合体育館・スイミングプラザ照明LED化	生涯	総合体育館及びスイミングプラザの電気設備改修・更新工事（照明LED化等）。	工事完成により、施設の長寿命化、施設利用者の利便性向上及び職員の負担軽減が図られた。	総合体育館メイン・サブコート、柔剣道場、ロビーへの空調・換気設備の設置に向けて、実施設計を実施する（設備は令和9年度共用開始予定）。
	② 総合体育館フィットネスラウンジ	財団	【新規】総合体育館ロビーの一角に運動器具を設置し、送迎の保護者等が手軽に運動できる機会を確保する。	総合体育館ロビーに運動器具を設置し、子どもの送迎等で来館した保護社等が手軽に運動できる機会を提供した。	総合体育館ロビーをはじめ、運動予定のない来館者が手軽に運動できる機会を提供する。また、ターゲットが運動意欲を維持向上させる仕掛けを検討する。

ビジョン 2 関わる・支える・つながる・育てる 地域力を引き出す“運動・スポーツネットワーク” 【「ささえる」運動・スポーツ→つながりづくり】

基本目標 2 運動・スポーツを取り巻く環境の充実

施策	事業名	実施主体	R6事業概要	R6事業報告	R7事業計画（案）※予算（案）の可決を前提に記載
(1) スポーツ団体等の活動支援	① スポーツ少年団夏季大会	スポ少	各スポーツ少年団間の交流を図ることを目的として、夏休み期間に自然体験等の集団活動を実施する。	事業内容・開催時期を工夫したが、参加者数が低調だったため、ニーズ調査を行い事業の見直し案を検討した。	低学年・高学年同時開催を検討。各単位団からの要望や意見を反映し実施する。
	② 総合スポーツ大会	スポ協	「スポーツの日」に合わせて、村スポーツ協会各連盟（18種目）による競技大会を開催し、地域住民の交流を	コロナ明け5年ぶりに全競技連盟が一堂に会する総合開会式を開催した。競技大会は合計で3,370人が参加した。	【70周年】村発足70周年記念参加賞の作成をはじめ、各競技連盟において、村発足70周年の機運醸成に寄与する大会運営に取り組む。
(2) 運動・スポーツの担い手の育成・活動支援	① スタートコーチ養成講習会	スポ少	スポーツ少年団の指導者を養成するため、本村を開催地として講習会を開催する（2年に1度開催）。	スポ少指導者15名（村内15名）が受講し、運動・スポーツ指導ガイドラインを学んだ（JSPO指導者資格の更	スポーツ少年団運営に必要な資格（スタートコーチ）を更新するために必要な講習会を継続的に開催することで、地域の指導者の活動環境を整える。
(3) 学校における運動・スポーツの活動支援	① 地域スポーツ指導者派遣	生涯	中学校の運動部活動顧問の指導補助及び負担軽減のため、村スポーツ協会から指導者を派遣する。	12月末現在で、中学校運動部活動6種目に対して、村スポーツ協会の会員約315回・430人を派遣した。	地域クラブへ移行していない中学校運動部活動をはじめ、小学校や幼稚園・保育所等の事業へスポーツ協会の会員を指導者として派遣する。
	② 中学校運動部活動の地域移行	生涯	R8年度の完全地域展開を目指し、地域クラブ化する種目を拡大する。R5年度展開済種目（部活動：4/12、部活動外：2）。	野球、サッカー、軟式テニス、ホッケーについて、令和7年度からの地域展開に向けて関係者との協議を進めた。	【重点】野球、サッカー、軟式テニス、ホッケー（R7）、柔道、剣道、女子バレーボール、吹奏楽（R8）の地域展開を目指し、関係者と協議を進める。

ビジョン 3 村民の健康と笑顔があふれ、選ばれる“運動・スポーツのまち TOKAI” 【「する」「みる」「ささえる」運動・スポーツ→まちのにぎわいづくり】

基本目標 3 運動・スポーツを通したまちの魅力の発信

施策	事業名	実施主体	R6事業概要	R6事業報告	R7事業計画（案）※予算（案）の可決を前提に記載
(1) 運動・スポーツを魅せる環境づくり	① イモゾー体操	スポ推	【新規】スポーツ推進委員協議会において、地域資源を活用した体操を考案し、運動・スポーツの機運を醸成する。	スポーツ推進委員が検討を重ね、芋掘りから干し芋づくりまでの動きを軽運動化した、イモゾー体操を創作した。	スポーツ推進委員事業での活用をはじめとして、各種広報媒体でのPRを強化し、学校・地域・事業所等での実施・定着を目指す。
	② 村のスポーツ「ホッケー」の推進	生涯	【新規】村のスポーツ「ホッケー」を「する（体験）」「みる（応援）」「ささえる（支援）」機会を拡充する。	村広報誌やHP、SNS等を活用し、ホッケー競技のPR及び東海HCのリーグ公式戦を観戦する機会を提供した。	【70周年】トップリーグのチーム等を招聘するほか、誰でもホッケーに親しめる体験コーナーを設置する（仮称）ホッケーフェスティバルを開催する。
	③ プロスポーツ連携事業	財団	協定締結の水戸ホーリーホックや茨城ロボッツ等、村民がプロスポーツに触れる（教室・観戦等）機会を提供する。	水戸HH・茨城ロボッツ「東海村PRデー」及び各種連携事業により、村民がプロスポーツに触れる機会を提供した。	「東海村PRデー」をはじめプロスポーツの観戦機会を提供する。また、PR大使の活用等各種連携事業により、村内イベントで運動・スポーツをPRする。
(2) 運動・スポーツの楽しみ方や魅力の発信	① 広報とうかい特集（4/10、9/10）	生涯	【新規】第2期計画を広報とうかいの特集記事として掲載し、本計画及び計画に基づく取り組みのPRを行う。	第2期計画の紹介をはじめ、イベントPRや成績優秀者の紹介等、30を超える記事を広報とうかいに掲載した。	広報とうかいやSNS等を活用し、イベントPRや地域・プロスポーツ情報、成績優秀者の紹介等、村が関わる運動・スポーツ情報を積極的に発信する。
	② スポーツ協会ホームページ構築	スポ協	【新規】村スポーツ協会（スポーツ少年団含む加盟団体）公式ホームページを構築し、情報発信体制を強化する。	村スポーツ協会（スポ少含む加盟団体）や各種事業の案内・参加者募集等の基盤となるホームページを公開した。	ホームページを活用し、各競技連盟の事業情報や事業終了後の結果報告、事業への参加者・新規加入者募集等のほか、本部事業の情報発信を強化する。
	③ 運動・スポーツSNS	財団	【新規】本村の運動・スポーツ情報を一元的に発信するSNSアカウントを作成し、情報発信体制を強化する。	財団で検討を重ね、若年層の事業参加をねらいとして、新たにインスタグラムのアカウントを開設した。	財団（文化・芸術部門を含む）が主催・共催するイベント等の情報発信をはじめ、村やスポーツ関係団体、プロスポーツに関する情報発信に活用する。
(3) 運動・スポーツを核としたにぎわいの創出	① 第4回スポーツフェスタTOKAI2024	生涯	スポーツとスイーツのコラボを軸とし、村内スポーツ団体等が運営するスポーツ体験ブースの充実化を図る。	1,234人の来場者に加え、スタッフも過去最高の291人を記録するなど、村民総参加型イベントとして定着してき	第2期計画を体現する基幹事業として、村民総参加・多分野連携をキーワードに、運動・スポーツの習慣化に向けた仕掛けの強化等、更なる充実化を図る。
	② 運動・スポーツ推進ロゴマーク	生涯	【新規】本計画推進の旗印となるロゴマークを製作・周知することで、運動・スポーツの機運を醸成する。	スポーツフェスタでロゴマークを決定し、各種広報媒体への掲載や啓発物品の製作により、第2期計画をPRした。	啓発物品をイベント開催時の景品等として活用することで、運動・スポーツのモチベーションの維持・向上を図り、併せて第2期計画のPR・定着化を目指す。
	③ スマイルマラソン2025	スマイル	親子、小中学生、一般を対象としたマラソン競技のほか、中学生以上を対象とした駅伝競技を実施する。	駅伝競技を拡充し、一般の部28チーム、小学校高学年の部18チームが参加し、例年以上の賑わいを見せた。	笠松運動公園陸上競技場が改修工事に入ることから、「絆」での開催を検討する。村発足70周年記念に関する内容を盛り込み、更なる賑わいづくりを目指す